

大空のまちづくりフォーラム

あの日あの時ミサワ航空史

日時 平成 26 年 **10 月 13 日 (月)**
13:00 ~ 16:00 **参加無料**

場所 **三沢航空科学館 AV ホール**

プログラム

- 13:00 ~ 13:05 主催者あいさつ
13:05 ~ 13:15 三沢市の航空の歴史紹介 DVD 放映
13:15 ~ 14:15 基調講演
- 演題** あの日あの時！ミサワ航空史
太平洋横断飛行「光と影」
- 講師** 青森県立三沢航空科学館 館長 大柳 繁造 氏
- 14:20 ~ 16:00 パネルディスカッション
- テーマ** 「航空機遺産と一式双発高等練習機」
～縁欠不生、「ご縁」と「絆」と「幸運」と～
- パネラー** (株)青洋建設 会長 高橋 弘一 氏
航空ジャーナリスト協会 専務理事 鈴木 幸雄 氏
(株)ウインディーネットワーク 社長 杉本 憲一 氏
三沢市まちづくりアドバイザー 下谷 栄治 氏
- コーディネーター** 青森県立三沢航空科学館 館長 大柳 繁造 氏

併催行事：模型による三沢飛行場飛来機 フォーラム参加者の特別展料金は免除。



三沢市の航空の歴史を知ることは、大空のまちづくりを推進する重要な視点である。そうした中、平成 24 年 9 月 5 日十和田湖に沈んでいた旧日本陸軍機（一式双発高等練習機）が、有志の手で 69 年振りに引き上げられ、青森県立三沢航空科学館へ展示されている。現在、その陸軍機は「航空遺産」として認定を待っているところであるが、当市の航空史を学ぶと同時に「航空遺産」を活かした大空のまちづくりを市民と共に考える機会とする。

NPO 法人テイクオフみさわ
〒033-0022 青森県三沢市三沢北山 158 (三沢航空科学館内)
TEL / 0176-50-7777 FAX / 0176-50-7559



大柳 繁造 氏

1933 年 5 月 23 日生まれ。
1956 年 東京理科大学理学部物理学科卒業。
(株)大柳モーター商会入社 (後のトヨタカローラ青森)
1982 年 トヨタカローラ青森(株) 代表取締役会長就任。
2006 年 青森県立三沢航空科学館 館長就任。
トヨタ自動車大衆車店経営に永年参画して、自動車販売で活躍された。



高橋 弘一 氏

1934 年 11 月 20 日生まれ
1953 年 青森県立青森工業高等学校機械科卒業。
1961 年 青森青年会議所入会 第 19 代「青森青年会議所理事長」。
1970 年 市議会議員 2 期、県議会議員 8 期、「青森県議会議長」歴任。
2008 年 (株)青洋建設代表取締役会長、(株)青森マリナー取締役会長就任。
青森市体育協会会長、青森県サッカー協会会長などスポーツ振興に務め、「英霊にこたえる会」青森県本部会長として「キ-54」引揚げに一方ならぬご尽力を頂いた。



鈴木 幸雄 氏

1943 年 東京都台東区生まれ。東京理科大学物理学科卒業。
1985 年 創立の日本の航空ジャーナリストを集めた協会。
(現会員 160 名) の設立以来専務理事を務める。
当協会は日本の航空史、航空宇宙遺産を次世代へ継承することを目的としており、三沢をはじめとする、成田、所沢など日本の航空科学博物館を会員の豊富な航空に関する知見支援する活動を行っている。



杉本 憲一 氏

1947 年 静岡県生まれ。
1967 年 青山学院大学法学部卒業。
1986 年 (株)下田 O A システム 代表取締役社長就任。
1992 年 (株)ウインディーネットワーク 代表取締役社長就任。
富士ゼロックス静岡 (株) ゼロックス会 会長。
海洋調査において、貴重な海中物を多数発見、全国的にマスコミに取り上げられる。トルコ・エルトゥールル号、蒙古軍沈没、ミクロネシア ナンマドール海底宮殿等、調査に参加。



下谷 栄治 氏

1951 年北海道生まれ。1977 年国立室蘭工業大学大学院工学研究科修士課程修了。定年退職後、63 歳で大型太陽光発電事業等を手がける会社の代表取締役に就任する。7 年間、アドバイザーとして行政に向けて提言活動を続ける一方、三沢国際クラブ会員として日米国際交流活動、みさわおもちゃ病院院長として、ものを大切に、感謝する心を子供達に培う活動を実践している。

後援

- 三沢市・三沢市教育委員会
- 青森県航空協会・青森放送(株)
- (株)青森テレビ・青森朝日放送(株)
- (株)エフエム青森・(株)東奥日報社
- (株)デーリー東北新聞社
- 読賣新聞青森支局



三沢らしさである「基地のまち」「大空のまち」「国際色豊かなまち」は、ミス・ビートル号がルーツであると言って過言ではありません。太平洋無着陸横断飛行の成功がなければ、海軍航空隊基地並びに米軍航空基地の設置はなかったかもしれません。三沢には多くの航空機が飛来し、飛行場・基地の発展と共に街が大きくなってきました。

太平洋無着陸横断飛行への挑戦



「タコマ号」

昭和5年9月14日 午前5時8分
淋代を離陸。排気管故障の為東通村尻旁に不時着



「パシフィック号」

昭和6年5月31日
離陸できず飛行断念



「クラシナ・マジジ号」

昭和6年9月8日 午前5時25分
淋代離陸。13時間飛行し暴風雨に会い、無人島に着陸する。



「ミス・ビートル号」

昭和6年10月4日午前7時1分
淋代を離陸。10月5日午前7時11分
ワシントン州ウエナッチ胴体着陸太平洋無着陸飛行を成し遂げた。
飛行時間41時間10分。



「第三報知日米号」

昭和7年9月24日 午前5時37分
淋代離陸。
翌25日午後3時以降、連絡不通。

日本海軍航空隊時代

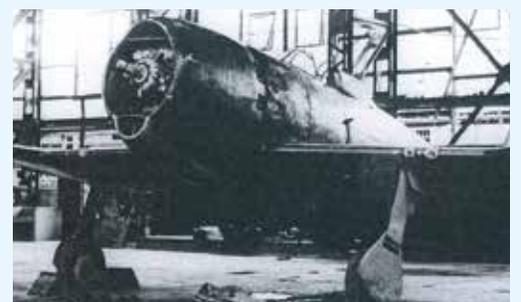


三沢航空基地

昭和6年の満州事変、昭和12年の支那事変と戦火は拡大の一途を辿るばかりだった。昭和13年、三沢村に海軍の飛行場建設が決まり、昭和16年に完成。そして、昭和17年2月、一式陸攻27機で三沢海軍航空隊が編成された。



ラバウル上空の三沢705空の編隊



横須賀海軍航空隊審査部が三沢に移転、烈風、連山、零式64型の試験飛行を行っていた。

米軍進駐・三沢空軍基地設営

三沢飛行場の占領は、昭和20年9月26日に先遣隊が安全を確認し、翌27日、米第81師団内、パーカー陸軍大佐以下1700名が進駐した。その後、米軍空軍基地となり、昭和27年、日本航空の東京 - 札幌便の中継基地として民間航空三沢空港として開港。昭和29年、航空自衛隊北部訓練航空警戒隊が三沢基地に移駐した。現在、三沢飛行場は軍民共用空港として使用されている。



昭和31年 第45戦術偵察飛行隊 RF-84F



昭和52年、航空自衛隊第3航空団3飛行隊 F-100 配備前方8飛行隊 F-86F



昭和60年 第432戦術戦闘航空団 F-16A 配備



平成13年、空自第3航空団3飛行隊 F-2 配備

十和田湖から69年ぶりに引揚げられた一式双発高等練習機 (キ-54)

平成24年9月5日、十和田湖宇樽部の造船所から沖合150m、水深20mの湖に停泊した台船上から、岸辺のクレーンによって機体は陸揚げされた。キ-54は尾翼、両発動機、操縦席、胴体付き主翼の順に69年ぶりに姿を現した。機体には当時のままの鮮やかな日の丸。ギャラリーから、一斉に歓喜に似たどよめきが起こった。

